

Q&Aでわかるプラネタリーヘルス

なぜプラネタリーヘルスが今注目されているの？

1 気候変動の影響の深刻化、およびコロナ禍により、人間の活動と自然環境の関係が再認識され、野生動物との接触や生態系の破壊が感染症リスクを高めることが注目されるようになりました。国際社会では、気候変動やSDGsを背景に、課題を分野ごとに切り離すのではなく、健康・環境・社会を統合的にとらえる考え方が広がっています。

プラネタリーヘルスは、その流れを体現する新しい概念であり、人と地球の健康を一体として守ることを目指しています。

〇〇ヘルスと最近よく聞くけど、違いは何？

よく似た概念に例えば「ワンヘルス」というものがあります。ワンヘルスは、人間の健康・動物の健康・生態系の健康を一体として捉え、それぞれの分野が協力して健康リスクに対処しようとするアプローチです。ワンヘルスは、歴史的に動物由来の感染症などのリスクへ即時対応をするための「実践的対応」が強かったことに対し、プラネタリーヘルスは「地球全体の限界」「社会の仕組み」「将来への責任」といった「より包括的なアプローチ」を掲げています。どちらも目指すゴールは同じなので互いに補いあうことが重要です。

2

どういった分野からプラネタリーヘルスに貢献できるの？

3 保健分野では、例えば病院を建設する際、環境負荷の少ない太陽光パネル等を用いた持続可能なエネルギーによる電力の供給を考慮することで災害等の緊急時を含めた継続的な医療サービスの供給と、環境に優しい病院運営を同時に実現できます。

また、一見関係がなさそうに見える分野の取り組みも、実は地球と人の健康に深く関わっています。たとえば世界では、現在約13億人が家畜と関わり暮らしており、畜産業で家畜の衛生や健康状態を改善することにより、より安全で効率的な食料生産が可能になります。

また、生産の効率化により、水や飼料、薬品の消費、家畜からの温室効果ガスの排出を減らすことができます。

こうした取り組みの結果として、人の健康（栄養状態）と地球の健康の両方を守ることにつながります。この他にも水・衛生、農業、教育など、多くの分野でプラネタリーヘルスに貢献する可能性が広がっています。

JICAはプラネタリーヘルスにどう貢献しているの？

JICAはこれまで、「JICAグローバルアジェンダ」で掲げる20の課題のもと、SDGsの達成に向けて幅広い分野で協力を進めてきました。

その取り組みは、人々の健康を守るだけでなく、安全な水の供給や災害への備え、持続可能なエネルギーの利用、環境保全、地域産業の発展などを通じて、地域社会の暮らしを支えています。

こうした事業の多くは、プラネタリーヘルスの視点で見ると、すでに人と地球の健康の両方に貢献しています。

JICAは引き続き、保健分野にとどまらず、多様な分野との連携を一層強化し、プラネタリーヘルスに資する支援を行っていきます。

4

出典 [1] JICA、事業について、<https://www.jica.go.jp/activities/#anchor1>（アクセス：2025年10月）